

小学生の「税についての作文」優秀作品の紹介

徳島県知事賞

私たちの暮らしに大切なもの

中野島小学校 6年

奥田夏芽

前に消費税が八パーセントに上がったとき「高くなるのはいやだ」と思いました。それで外国と日本でどれくらい消費税にちがいがいいのか知りたくなりました。調べてみると日本の消費税は他の国に比べて低い方でした。

その中で消費税が二十五パーセントと高いデンマークを見つけました。デンマークは消費税が高い上に所得税も高く年収の三分の一は税金として持っていかれます。そんなに税をとられてデンマークの国民は幸せなのかと疑問に思って調べてみると、デンマークは、「国民の幸福度ランキング」世界一位でした。それはデンマークは学校・医療・出産などにかかる費用が無料になっていて高齢者や子ども、働くお母さんにやさしい国だからだと思いました。もちろん戦争もありません。高い税金が何に使われているか分からないと不満が出るとは思いますがデンマークは使い道を明確にしているからサービスが充実しています。今までは税金は低い方が得と思っていました。でもデンマークのことを調べて、税金が低くても国のサービスがあまり充実していなかったり、税金が高くても国からのサービスが充実していたりすることを知り、税金が低いから得というわけではないと分かりました。

「税金なんていらない」最初はそう思っていました。それは物を買うときに余分にお金を払わないといけないからです。でもその税金のおかげでこわれた道路や橋を直したり、決まった曜日に無料でごみを集めたりしてくれます。また私たちが学校に行く時もお金がいらぬのです。授業に必要な教科書なども無料で使うことができます。だからみんなが学校に行くことができます。

きれいな町、安心して暮らせるような町にするために税金は国民みんながきちんと払わなければいけないものだと思います。私も大人になったらきちんと税金を納めて安心して暮らせるようにしたいです。

小学生の「税についての作文」募集（5、6年生対象）は、毎年、徳島県下各単体法人会が中心となって行っている租税教育推進事業で、平成27年度募集では県下全体で1,536点（120校）の応募がありました。

中学生の「税についての作文」優秀作品の紹介

徳島県知事賞

税金から考えたこと

大麻中学校 3年

小川 真歩

私の祖父母は団地に住んでいる。この団地の住民はほとんどが高齢者である。私が小さかった頃に団地に行くとおじいちゃんやおばあちゃんが声をかけてくれてうれしかったのを覚えている。小学生になって、祖母とこんな話をしたことがある。この団地には昔はたくさんの子どもがいたけれど、その大半が大人になって団地の外や県外に働きに出てしまったと。そして今は子どもや若い人が少なくなってしまうらしい。

これはこの団地だけの状況ではない。日本は今、世界で一番の長寿国となったが、生まれてくる子どもの数が減っているのが少子高齢化社会になっている。これから子どもの数は増えるとは考えにくいので、かなり深刻な問題となってきている。私はこのことの問題点は、高齢者を支える働き手が少なくなってしまうということだと思う。これから私達はその働き手になり、日本の高齢者を支えていかなければならないのだ。働き手と高齢者の比率は、一九九〇年は働き手五人で一人の高齢者を支えていたのだが、二〇五〇年には働き手一、二人が一人の高齢者を支えると予想されている。

高齢者を支えていくためには、生活費や、医療費や、たくさんのお金が必要だ。だから、消費税が五%、八%、そしていずれは十%と上がっていくのだろう。百円の物を買うだけでも、八円の消費税を払わなければならない。私もお小遣いをためて二万円の音楽プレイヤーを買ったとき、なんと消費税を千六百円も払ったのだ。その時はすごく嫌な気持ちがあった。千六百円もあれば、本が二冊以上買える。なぜそんなに税金を払わなければならないのだろう、と腹が立った。私のように不満を持つ人は大勢いるだろう。

だが、よく考えてみると、そうやって、少しずつ、みんなからお金を集めているのが税金なのではないだろうか。十分な税金がなければ、高齢者が医療費や年金がもらえない。若い人が少なくなってきたから、一人当たりの負担が増えるのは仕方ないことだと思う。税金は立場の弱い人のために使われることが多い。だから、若くて元気な人はきちんと働いて、働いたお金の中から少しずつ出し合っていけばいいと思う。

私は、強い人も弱い人も、お金持ちも貧しい人も、病気の人も元気な人も、子どももお年寄りも、みんなが支え合っていく社会に住みたいと思う。困っている人がいたら気持ちよく手を差し伸べて助けてあげられる人になりたいと思う。税金もそんな助け合いの一つの形だと思う。お金を余分に払うことは好きではないが、そのお金が弱い立場の人の所にうまく届いて、その人たちに幸せが届けられたら納得できる。私もいつかは高齢者になり、支えてもらう立場になる。そうなるまでは私が働き手になったらきちんと税金を納めていきたい。

中学生の「税についての作文」募集は、毎年、徳島県納税貯蓄組合連合会が中心となって行っている租税教育推進事業で、平成27年度募集では県下全体で7,053点（87校）の応募がありました。

中学生の「税についての作文」優秀作品の紹介

徳島県知事賞

税について学び考えたこと

鳴門教育大学附属中学校 3年

山根綾華

これから始まる新生活に胸をはずませ門をくぐった中一の春。しかし教室に入ると、そこにあるのは山のように積み上げられた教科書。私はその量の多さに先程までの喜びが一気にクールダウンしたのを覚えている。学年が上がるにつれて増えていく教科書。

「また増えた。めっちゃ鞆重うなるな。」

学校の帰り道、友との会話に花を咲かせながら、肩に食いこむ鞆の重さをひしひしと感じた。しかし、今年の冬、学校で「税」についての講習会があった。私は自分の無知さに恥ずかしさを感じながらも講師の方のお話に驚き、税の役割の大切さを実感した。

「税は"かたち"としては見えにくいけど、便利な身の回りの環境はほとんど税金で支えられているんですよ。」

私は思わず体育館を見回した。これも税金？あの重たい教科書も？幼い頃よく遊んだ公園も？通学路の道路や橋も？私の頭の中は、まるでパズルを解いていくように次から次へと「税金」という言葉で埋まっていった。そしてピース一つ一つに含まれている税金のありがたさに感謝の思いでいっぱいになった。

この講習会を通して、私は「税金」を身近なものとして感じた。学校、公園などの公共施設や教科書、また道路や橋の建設は、公共事業費や文教及び科学振興費、経済協力費など全て税金で賄われていることを学んだ。また高齢者が急増する昨今、日本の医療費などの社会保障関係費は高齢者やその家族にとっても大きな支えとなっている。

私の曾祖母もまた社会保障制度に支えられている高齢者の一人である。曾祖母は週に一度デイサービスに通っており、その日を心待ちにしている。私は整備された医療制度や医療サービスが高齢者の方々の明るい笑顔を花咲かせているのではないかと思う。

税金は人々の生活を支えるだけではなく、精神面でも人々の心を大きくサポートしている。生きる喜びや勇気、また学ぶ喜び…。私は今充実した教育環境の中で学んでいる。今回の講習会をきっかけに、私はどのような税の仕組みがあるのかもっと知りたくてインターネットで調べたり、家族と「税金」について話し合った。そして、今まで以上にこの恵まれた環境に感謝しなければいけないと強く思った。

私たち一人一人の国民の生活を豊かにしてくれるもの。それが税金だ。私たちは共に支え合って生きている。幼い子どもから高齢者まで様々な立場の人々が笑い合って楽しく生きることのできる社会。世代交代が進み、循環していく社会の中で、私もその中の一員なのだという自覚を改めて感じた。この安心して暮らせる幸せな社会がこれからも永遠に続いていくことを心より願っている。私は将来恩返しをしたい。教科書を手を、様々な事を学び、思いやりの心を育てていきたい。共に支え合い社会を担う未来の一員となるために。